

巻頭言

高松赤十字病院紀要第6巻の発刊にあたって

高松赤十字病院 院長 網谷 良一

この度『高松赤十字病院紀要 第6巻』を刊行しました。平成25年の創刊以来、掲載論文数は年々増加し、今回は原著論文や症例報告等を合わせて17篇の論文が掲載されています。「高松赤十字病院事業運営5カ年計画」の重点項目の一つに「院外への情報発信の推進」を掲げ、職員の皆さんには折に触れて積極的な学会発表や論文発表を奨めてきましたが、本誌面を通じての情報発信も職員の皆さんに浸透しつつあることをたいへん嬉しく思います。

掲載された17篇はいずれも最前線の臨床現場に関わる者にとって興味深い論文ばかりです。個々の論文について解説は致しませんが、診療科はもとより薬剤部、放射線科部、検査部、リハビリテーション科部、医療社会事業部など多部門から現場の実地経験に根ざした意義深い発表が為されています。日常業務にすぐさまフィードバック出来る有益な知見を含んだものばかりです。是非とも多くの職員の皆さんに読んでいただきたいと思います。

各部門・各部署の職員の皆さんから毎年多くの興味深い論文を投稿していただいております。現場での貴重な経験あるいは苦い経験に関する発表、さらには蓄積された経験に基づいた新たな取り組みについての発表を今後とも本誌面を通じて積極的に行っていただくことを大いに期待します。

研修医からの発表も昨年からさらに増え、今回は4篇の症例報告が掲載されています。臨床研修のいっそうの充実のためには学会発表・論文発表は重要な要素の一つとなりますが、『高松赤十字病院紀要』はその受け皿の一つとしての役割を今後もしっかり担っていきます。研修医の皆さんに限らず専攻医を含む中堅・若手医師、さらにはベテランの医師の皆さんにも本紀要を活用していただくよう希望します。

当院は香川県とりわけ県東部の高度急性期医療、高度専門的医療並びに先進医療を担う中核病院としての役割を職員の皆さんのご尽力によって果たしてきました。平成30年4月にはDPC特定病院にも認定されました。当院が掲げる「安全で質の高い患者中心の医療」を職員の皆さんの協働によって継続実践するとともに、外に向けての情報発信にも力を注いでいただきたいと思います。

『高松赤十字病院紀要』をはじめとして、和文・英文を問わず、国内外を問わず、それぞれの専門領域の公式雑誌にも積極的に発表されることを心より願っています。論文発表には少々辛い作業が伴いますが（中には余り辛いと感じない人もいるようですが）、その努力は様々な場や様々な形で報われます。何よりも自分自身の達成感が得られます。次号でもさらに多くの投稿を待っています。